



IOM Japanese

Vol. 2

International Organization for Migration
IOM パキスタン地震被災者支援ニュース
日本語版 2005年12月9日

発行

国際移住機関 (IOM) 駐日事務所
駐日代表 中山 暁雄

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 1-1-12 虎ノ門ビル 8 階

Tel. 03-3595-2487 Fax. 03-3595-2497

Website: <http://www.iomjapan.org> (日本語)

<http://www.iom.int> (本部英語)

広報 後藤 裕子 (お問い合わせ)

South Asia Earthquake news

パキスタン地震 被災者支援

10月8日の地震は、パキスタン北部を中心に甚大な被害をもたらしました。IOMはパキスタンにおいて、緊急シェルターの提供、援助物資の輸送、医療の3つを柱とした支援を災害直後より継続しています。

このうち日本からの100万米ドルの支援を受け、援助物資の輸送、被災者の移送、負傷者の緊急移送を実施しています。また、被災した女性や子どもたちが犠牲にならないように、人身取引の危険を訴えるキャンペーンを実施しています。



パキスタン・アライ県
山間のバナ村に自民党からの毛布を届ける
左は IOM 職員 浜田祐子 © IOM 2005

日本からの物資を配布

自民党からの援助物資を被災地へ

自衛隊、日本の NGO との協力

IOMは、日本企業と自由民主党が11月1日に全日空のチャーター機でイスラマバードに届けた援助物資を、配布のため被災地まで輸送しました。

毛布、テント、衣類など、合計9.5トンの越冬用の物資を、被災者への配布を担当するジャパン・プラットフォーム参加NGO3団体、ジェン (JEN)、日本国際民間協力会 (NICCO)、ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) と、自衛隊に向けてトラックで輸送しました。

さらに自衛隊がヘリコプターで山岳地帯に輸送した物資の配布は、IOMとパキスタン軍が協力して行いました。すでに降雪を観測している被災地に暮らす人々が暖をとるための貴重な備えとなりました。

その他、日本紛争予防センター (JCCP) からの依頼を受けて、11月末に日本政府提供の毛布600枚を、12月に入ってからテント300張を輸送しました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) に対しても、トラック8台分の物資輸送サービスを提供しました。



パキスタン
自民党の支援による毛布を被災者に届ける
© IOM 2005

自衛隊との連携活動を終了

被災地への物資空輸・被災者の緊急移送



パキスタン
自衛隊による負傷者の緊急移送
写真提供・陸上自衛隊

10月21日以来、IOMは陸上自衛隊よりパキスタンに派遣されていた「パキスタン国際緊急航空援助隊」と協力し、ヘリコプターを使用した被災地での援助物資の輸送、被災者の移送といった支援を続けていました。11月24日に最後の物資輸送を終え自衛隊が帰国し、スマトラ沖地震・津波後のインドネシア・アチェでの協力に続く、IOMと自衛隊の連携による2度目の人道支援活動が終了しました。主に、道が地滑りにより遮断されて援助の手が届いていなかった北西辺境州の山岳地帯バタグラム県アライ（人口約194,000人）を対象とし、IOMがニーズ調査と配布、自衛隊がイスラマバードから被災地近くのヘリポートまでの空輸を担当しました。➤

➤日本政府から寄贈されたテント、毛布、発電機など9トンの物資や、自民党からの援助物資、IOMが用意した物資など、自衛隊は合計54トン以上の物資を被災地に届けました。

また、被災地の保健機関や日本のNGO、災害人道医療支援会（HuMA）などからの照会を受け、現地で治療できない深刻な状態の患者を、IOMの調整のもと、自衛隊のヘリコプターでバタグラムやイスラマバードなどに緊急移送しました。



パキスタン
自衛隊からの写真とシールのプレゼントにっこり ©IOM 2005



パキスタン
援助物資を届けた村へ自衛隊が最後の訪問
左端は IOM 浜田祐子 ©IOM 2005



パキスタン
陸上自衛隊 援助隊長から記念の盾を
受け取るマッキンレー事務局長
写真提供：陸上自衛隊

IOM 事務局長 被災地を訪問 国際社会へさらなる支援を呼びかけ

ブランソン・マッキンレー IOM 事務局長が、11月18日から22日の日程で、パキスタンを訪れました。

パキスタン政府および軍、自衛隊など、被災者支援・復興に当たる関係者との会談やドナー会議に出席したほか、被災地バタグラムの状況を視察しました。

マッキンレー事務局長は、「支援の初期段階では、パキスタン政府や軍との連携が非常にうまく機能しました。今後の復興支援でもこの連携を生かしたい。そのためには、国際社会からの支援が不可欠です。」と被災地から訴えました。



パキスタン・バタグラム
被災者と語る
マッキンレー事務局長（後列左）
©IOM 2005



国連人道問題調整事務所ウェブサイト
ReliefWeb より

緊急シェルター

冬を迎えた被災地 建設・修理セットの配布を急ぐ



パキスタン ニーラム谷（ムザファラバード近郊）
IOM が提供した道具でシェルターを建てる
©Berett Williams / IOM 2005

IOM は、国際機関や NGO など 60 の援助団体による緊急シェルター支援の調整を担当しています。

現在は、被災地の中でも特に標高 1,500m 以上の山岳地帯に住む 70,000 人の人々に、シェルター 10,000 軒分の建設・修理材料と道具の配布を進めています。

山岳地帯ではすでに降雪を記録し、寒さが一段と厳しく

なっています。地滑りの発生により道路の遮断も頻発しています。IOM の支援が届く直前に子どもが肺炎で死亡したという報告が、バラコット南方 20km のカガン谷でありました。悪天候によりヘリコプターによる配布を中断せざるを得ないこともあります。犠牲者を増やさないように 200 台以上の車両に加えてラバやロバも導入して時間との戦いの中で活動を続けています。

IOM は 11 月末までに、パキスタン軍や NGO などとの協力のもと、約 1,300 セットの建設・修理材料と道具を配布しました。他にニーラム谷とアライ谷への配布用の 6,000 セットが配布拠点に到着しており、1,000 セットが近くシリン谷での配布のために輸送されます。

標高 1,500m 以下の地域に住む被災者には、冬仕様のシェルター、食料、毛布、暖房器具などがすでに行き渡っています。シェルター支援を行う援助団体は、被災者がすでに生活しているシェルターが越冬に耐えうる仕様であるか、確認の調査を実施中です。

援助物資の輸送と被災者の移送

落石や地滑りなどの頻発や積雪により、被災地への車両での物資の輸送は困難を極めています。しかし、IOM はトラックやジープを用いた輸送能力の拡充を続けています。NGO などに向け 10 月は 303 台分の物資輸送を行いました。これが 11 月には 1,296 台を数えました。

IOM は被災者の移送支援も引き続き行っています。IOM バラコット事務所は、標高の低い場所で避難生活を送ることを希望する山間の村人たちに、ジープによる移送サービスを提供しています。しかし、家畜の世話や所有地を守るために、村に留まることを希望する人も多くい



パキスタン
バタグラムーパナ間の物資輸送
©IOM 2005

ます。

また IOM は 12 月初めまでに、被災地の医療施設では対応できない深刻な状態の患者 454 人とその家族を、ムザファラバードやイスラマバードに移送しました。



IOM International Organization for Migration
OIM Organisation Internationale pour les Migrations
OIM Organización Internacional para las Migraciones

IOM とは？

国際移住機関 (IOM) は、世界的な人の移動 (移住) の問題を専門に扱う国際機関です。「正規のルートを通して、人としての権利と尊厳を保証する形で行われる人の移動は、移民と社会の双方に利益をもたらす」という基本理念に基づき、移民個人

への直接支援から関係国への技術支援、移住問題に関する地域協力の促進にいたるまで、幅広い活動を続けています。IOM の本部はスイスのジュネーブに置かれており、世界各地に約 260 のフィールドオフィスがあります。加盟国は 2005 年 12 月現在で 116 カ国。日本は 1993 年に加盟しました。